

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73012	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)		病態生理学 (Morbid Physiology)			
担当教員名		高野 海哉			
授業の概要及び到達目標					
看護実践に必要な疾病の成り立ちの基礎知識を学習することである。また疾病の生物学的基礎を学び患者の訴えや治療に対する反応と関連づける習慣を養う。正常な人体の構造と機能を学習したあとで疾病によってそれらがどう変化するか学ぶ。具体的な疾病として腫瘍、感染症、血液疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、泌尿器疾患、神経・内分泌疾患、筋骨格系疾患などを取り上げる。					
準 備 学 習 等					
・初回授業時に、全 15 回分の講義レジュメを配布するので、各回の授業前に該当する内容部分を一読し、どのような内容講義なのか知っておく。 ・病態生理学は正常な人体の構造と機能の破綻を扱う科目である。本科目の授業に合わせて「体の仕組みと働きⅠ・Ⅱ」の内容を復習できるようにしておく。					
成績評価の方法	定期試験（100％）				
テキスト	大橋健一・谷澤徹・藤原正親・柴原純二，「系統看護学講座 専門基礎分野病理学－疾病のなりたちと回復の促進〈1〉」第 5 版，医学書院，2015				
参考図書	・ 佐藤達夫監修，「新版 からだの地図帳」講談社，2013 ・ 山口和克監修，「新版 病気の地図帳」講談社，2000 ・ 薄井坦子，「ナースが視る病気」，講談社，1994 ・ 渡辺照男編，「カラーで学べる病理学」第 4 版，ヌーヴェルヒロカワ，2014 ・ 深山正久編，「はじめの一步のイラスト病理学」第 2 版，羊土社，2017				
備 考	質問等は授業の前後で直接するか、メールで受け付ける。				

授 業 計 画

第 1 回 病気の原因、老化と死

第 2 回 細胞レベルの障害と適応

第 3 回 循環の障害

第 4 回 炎症と創傷治癒

第 5 回 免疫とアレルギー

第 6 回 腫瘍

第 7 回 呼吸器系に関連する症状・病態生理

第 8 回 ガス交換に関連する症状・病態生理

第 9 回 循環器系に関連する症状・病態生理

第 10 回 体液循環に関連する症状・病態生理

第 11 回 栄養素の消化と吸収に関連する症状・病態生理

第 12 回 栄養素の代謝に関連する症状・病態生理

第 13 回 エネルギー代謝・体温に関連する症状・病態生理

第 14 回 神経系に関する症状・病態生理

第 15 回 運動器系に関連する症状・病態生理

定期試験